

脇本商事の繊維のネタ帳 Vol.193

知っておきたい繊維の知識～アパレル編②⑤

こんにちは！

『知っておきたい繊維の知識』（ダイセン(株)より『アパレル編』をご紹介しますのでよろしくお祈りします～！

【代表的な縫製欠点とその防止策～地糸切れ】

地糸切れは、縫製時のミシン針によって生地を構成する糸（地糸）が切断される現象をいいます。

織物はあまり問題にはなりません、編物（特によこ編）は、着用、洗濯などにより傷が拡大する性質があるので問題視されます。

地糸切れ発生の原因は、編地の種類、密度、染色・仕上げの各加工条件などが考えられ、その防止には適切な対応が必要となります。

防止策は針貫通時に地糸が逃げやすいような針の先端形状であるボールポイント針を選定することが重要です。

また、合成繊維の場合は針温度上昇による溶着切断文字糸切れの原因になるので縫製速度は抑えます。

そのほか生地を平滑系油剤で処理したり、また、作業ははじめに針の先端部を指で触り、傷や変形が発生していないかを確認するなど日常管理も大切です。



facebook情報宅急便！

www.facebook.com/kkwakimoto

こんにちは！ポピンです～♪
今回は展示会出展のお知らせです～！

2026年11月5日(木)～6日(金)に行われる『北海道ビジネスEXPO』に出展します！！

「布製品をつくってほしい」「新商品を開発したい」など製品化までの商品課題に合わせた資材の提案、試作、縫製、製品化まで「ニーズをカタチにする」といった内容です。

北海道で、縫製の新しい仕事をつくるため、縫製案件の社会ニーズの発見と新たなビジネスの創造を目指します。

展示会では製品の見本展示や自社縫製工場の紹介、ネットワークを活かしたOEM生産をご案内しようと思っています。

みなさん、ぜひ会場に足をお運びください～
お待ちしております♪



NET PICKUP! 博報堂生活総合研究所による生活者の意識調査 定点調査で回答の変化を観測しています

生活定点より <https://seikatsusoken.jp/shohiyoho/2026-10/>

Q 2026年10月の消費意欲指数は？

最新(2026年9月上旬)調査結果

20～69歳の男女1,500名を対象に「来月の消費意欲」を点数化 **45.7%**

前月(9月)より0.1↓ 前年(2025年)より0.4↑

秋ならではの意欲が高まるも、物価高の影響で消費意欲は例年並みに消費意欲は、「書籍・エンタメ」で前月比増も、飲食や衣カテゴリーで前年比減

ラベルくん.com label-kun.com

～株式会社脇本商事のホームページからのお知らせ～

ラベルくん.comを運営しています脇本商事では生地をはじめ、副資材から梱包材など繊維製品の専門材料をピックアップしてご紹介しています。ぜひご覧ください～♪

<https://kk-wakimoto.com>



ガジェットの星

Gadget Star

便利な商品をインターネットから探してご紹介するコーナーです♪

ガジェット通信より <https://getnews.jp/archives/3732064>

紙にも iPad にも同じペンで書ける！

ゼブラとエレコムが共同開発したスタイラスボールペン『スタイラスツーウェイ』が7月31日に発売。紙にも iPad にも、切り替えなしで同じペン先のまま書ける1本。発売前に実機を試させてもらいました。

●紙にも iPad にも切り替えゼロで書ける「スタイラスツーウェイ」とは

「スタイラスツーウェイ」は、同じペン先のまま iPad の操作と紙への筆記が可能な、新開発の2WAY スタイラスペン。紙にはジェルインクで書き込み、iPad にはインクを出さずに操作できるため、画面操作と紙へのメモを同時に行いたいときに便利。ペ어링や切り替え操作も不要で、紙と iPad を自由に行き来し、ペンを持ち替える必要がなく、シームレスに使えるのが特徴。

開発当初は iPad で最高の筆感で書けるスタイラスペンを目指し、インクを搭載していない状態のボールペンのペン先を使ったスタイラスペンの開発を進めていたところ、iPad やフィルムの上のつるつるした場所では、ペン先のボールが回転していないことに気が付いたそう。この気づきが現在の機能を生み出すきっかけとなり、iPad だけではなく、『紙にも iPad にも書けるスタイラス「ボール」ペン』の誕生につながったといえます。チップとインクの組み合わせは70以上、インク試作は400以上。開発期間は約5年。

●『スタイラスツーウェイ』を使ってみた

軸色はブラックとホワイトの2色。軸には「STYLUS 2WAY」と、ゼブラとエレコムのロゴが並びます。クリップ部分をノックするとペン先が出て、同時に電源オン。ペ어링は不要です。軸の側面に青いLEDが点灯し、電源が入っているのはこれで確認できます。ノック式でペン先が引っ込むのは便利。まずは iPad から書いていきます。ガラス面を滑るような軽さがありながら、手には「いつものボールペンで書いている」ような感覚が返ってきます。ペン先が細いぶん、接地面の違和感がありません。書き慣れたボールペンの延長として手が動くので、Apple Pencil より書きやすい印象です。開発当初の目標が「iPad で最高の筆感」だったと聞くと、納得のいく書き味です。さて紙にも筆記してみます。こちらはさすがのゼブラ品質。専用開発されたジェルインクで、軽い書き心地です。同じペンで、同じ筆跡を紙と iPad の両方に。左が iPad、右が紙です。切り替え操作がないので、手の動きが途切れません。

●使う前に確認しておきたいこと

実際に使う前に確認しておきたいのが、液晶保護フィルムと対応機種です。液晶保護フィルムは必須で、推奨されているのはガラスフィルム。フィルムの種類によっては反応しにくかったり、インクが付着したりする場合があるそうです。また、すべての iPad に対応しているわけではなく、iPad Air や一部の iPad Pro は対象外なので、購入前に公式サイトでの対応一覧を確認しておくとう安心です。

※文章:ガジェット通信より抜粋



「日本手ぬぐいの美しい文化」
脇本康裕の気になるコラム連載
日本の暮らしに古くから根付いてきた「手ぬぐい」。そこには日本人の知恵と美意識、文化が詰まっています。最近では伝統的な柄柄だけでなく、現代が好きなデザインや当地デザインなど様々な手ぬぐいが作られ土産品や贈答品、イベントグッズとしても利用され「日本らしさ」を伝えるアイテムとして海外からも注目されています。手ぬぐいの大きな特長は、薄手の木綿生地で作られていて、一般的にタオルと比べて薄く乾きやすい点、汗を拭いたり、手を拭いたりする日常の道具として重宝されて、薄くてもさらさらした質感に持ち歩けます。もう一つの大きな特長は「切りっぱなし」の両端です。タオルのように端を縫製してないため始めはほつれが出ますが、その糸を取り除いていくことで端が自然に整っていきます。縫い目がないことで水分や汚れがたまりにくく、洗っても乾きやすいという合理性も日本の気候や暮らしに合っています。手ぬぐいは単なる「拭くための布」ではなく、そのほかにも包む、敷く、覆う、首に巻く、頭にかぶるなど様々な用途に使われ、一枚の布を何通りにも活用できる点も便利です。さらに手ぬぐいの魅力は語るうえで欠かせないのが「柄」。江戸時代には庶民の間で手ぬぐいの柄やデザインを楽しむ文化が広まったのだそうです。植物や動物、季節の風景など日本ならではのモチーフを取り入れられ、時には洒落や遊び心を込めた柄も生まれました。手ぬぐいは実用品であると同時に身につけるデザイン文化でもあったことがうかがえます。私も手ぬぐいをよく使いますが、使いこむほど柔らかくなり、色や風合いに変化があつて何度も繰り返し使え、最後は雑巾替わりに使うこともできます。木綿の生地が長い年月をかけて育んできた文化を象徴するシンボルで奥深い布なんです。ぜひみなさんもお気に入りの手ぬぐいを見つけてみてはいかがでしょうか。

